

川崎市議会議員 いわくまちひろ

悪化する市の天下り

民主みらい
川崎市議団

連載No.76



川崎市議会議員 ちひろ いわくま千尋

- 昭和50年生まれ 40歳
- 英国国立ウェルズ大学卒業
ロンドン大学大学院研究生
専門は国際政治学
- 国際派議員として、子どもから大人まで英語学とキャリア教育を教える。毎週日曜日は、イトーヨーカドー溝口店前で市政報告を継続中！(8年11カ月)

これまで市議会にて、川崎市から出間は原則65歳までを守っていない3資法人・外郭団体に流れるお金(補助金・委託料など)、市幹部職員OBの再就職(天下り)について取り組んでいます。とりわけ、市幹部職員OBの再就職(天下り)については、公務員での質疑を経て、行政は改善指導する旨を発表しています。しかし、その指

既得権益とも受け止められかねません。昨秋の市議会で、市の策定したルール(60歳定年後、出資法人での在職期

民間企業でも同様ですが、能力のある人物の定年後の再就職を否定することとはしません。しかし、市幹部職員OBは、3000万円弱の退職金を貰い、定年後、年収約500万円の役員に就任するのであれば、市のルールを最低限順守すべきです。

出資法人のトップの役職が、長年、市幹部職員OBで占められていたり、役職と出資法人への補助金が一体化している実態は、**税のムダ遣いや組織の硬直化に繋がります。**

現市長は、市長選の公約で約束した通り、速やかに出資法人改革に取り組むべきです。市長が「規則」を策定すれば、一瞬で解決する問題ですが、それをしないのであれば急慢と受け取られても仕方がないでしょう。

公務員の既得権益にも絡む問題なので、リスクを抱えながらの市議会での論戦となります。市民のみならず、ご関心をお寄せ下さい。